

宇宙開発から家庭まで、無線、無線応用機器、情報機器、マイコン、電子応用機器を得意とする開発型企業である。

企業概要	住所	東京都板橋区清水町79-2-203		主要品目	無線、ICタグ、無線応用機器、マイコン制御、センサー制御機器、福祉・介護機器、スポーツ計時装置	
	TEL	03-5248-6644	FAX	03-5248-6645	高シェア	無線・マイコン・電子応用技術を核とした高い開発力
	URL	http://www.first-ele.co.jp/		技術		
	創業年	1967年	資本金	1,000万円	拠点	板橋事業所（東京都）、本社（北区）
	代表者	代表取締役 伊藤 義雄	従業員	5人	その他	CEマーキング



代表取締役
伊藤 義雄

無線・マイコン制御・電子応用技術を核とした開発型メーカー

現社長が某大手電気メーカーを退社して、アマチュア無線通信機器の製造を始めたのが1967年。業界では有名な存在となったが、模倣されることも多かった。1985年頃から、ニッチ市場で当社の技術力を活かせる分野にターゲットを絞った。

当社の強みは、開発型メーカーと中小企業の特徴・利点を最大限に生かせる仕組みにある。無線、マイコン、アナログ、センサ、電子応用技術など幅広い分野の技術・ノウハウを持ち、幅広い分野の製品開発を可能として、受注できる間口を最大限

広くしている。また、技術者は製品の企画から開発・設計・試作・制作まで一貫して担当し、作業の効率を上げると同時に、幅広い技術を取得でき、やり甲斐が持てる環境となっている。

1990年には、スイスのタグホイヤー社との共同で高精度なスポーツ競技用タイム計測装置を開発して世界のスタンダードとなるなど、その高い技術力が高く評価され、宇宙開発を始めとする最先端技術開発に携わっている。また、自社ブランドでもさまざまな機器を製品化し、各国にも輸出している。

大手メーカー技術者が日参するマンション・カンパニー

当社は営業部隊を置かず、PRは全て社長手作りのホームページのみ、それでも、マンションの一室にある当社事業所にメーカーの開発担当者が通ってくるのが多くなり、近年は大手メーカーの研究開発受託が当社事業の半分以上を占める。

最近の開発実績では、大手おむつメーカーとの共同で、おむつが濡れるとセンサーが感知して換えどきを知らせるシステム「かえどき安心パッド」や、NEDOの5ヵ年計画事業で、大阪大学・眼科医療機器大手ニデックとの共同開発による、失明した

人の視覚をサポートする「人工視覚システム（目の位置にCCDカメラを設置し、身体に埋め込んだICチップで視覚野を刺激して視覚を得る）」などがある。後者は、多くのメディアでも紹介され多くの反響があった。

その他にも、宇宙開発ではJAXAからの受託による、母人工衛星から4基の娘人工衛星を切り離すための電子通信回路開発や、中部電力からの受託によるICタグによる魚類生態調査システムなど、枚挙に暇がない。

新たに「高速道路トンネル内FMラジオ再放送装置」を開発

高速道路のトンネル内で、FMカーラジオでFM放送を聴取可能とした装置。走行中トンネルに入っても途切れることなく高音質のFM放送が楽しめる。従来製品と比較して1/5の価格

で実現できる新方式・技術を開発し実現した製品。2010年度から5年計画で、全国的高速道路のトンネルに設置される。



スポーツ競技用タイム計測装置
(タグホイヤー社向けのOEM製品)



FM交通情報提供システム
(日本全国的高速道路に設置)

経営者の声 小規模ですが、主に自社ブランド機器を手がける開発型メーカーです

小規模な会社ですが、主に自社ブランドの無線応用機器、電子応用機器を開発から製造まで一貫して手掛ける開発型メーカーです。技術を要する多品種少量生産を得意とします。

無線機器の分野では豊富な経験・高度な技術・最新計測機器を完備し、特注品の開発や製作に広く、迅速に対応出来ます。

スポーツ競技用製品の分野ではスポーツカーレースの最高峰F1レースやダイバーウォッチで有名なタグホイヤー社に弊社

の高精度な製品をOEM供給しています。

異業種交流にも早期より取り組み、新製品の開発・製品化など多数の実績があります。東京都異業種交流プラザH8グループに参加して異業種交流事業に取り組んでいます。

福祉機器の分野では認知症老人介護用無線機器等を製造し、東京都北区福祉産業研究会に参加しています。

JR東海道新幹線 車内誌 「WEDGE 2009年12月号」34頁

(WEDGE Special Report 「『返済猶予』の間に中小企業を救うには」より)



自らの経営スタイルを貫く伊藤社長

始め、設立から09年3月末時点までの引き合い件数は2504件、成立件数は636件、成約金額も12・4億円を突破した。それだけではない。山本精工は取引先が9年前はわずか50社だったのが、今では450社に増えたという。また、衣川製作所(京都市)は試作ネット加入前の売上高は1億8000万円だったのが、昨年度は3億6000万円に達するなど、試作ネットのメンバー企業の業績も好調のようだ。

同社代表取締役の衣川隆文氏は、「当社は半導体製造装置に強みがあったが、試作ネットに加入して以降、半導体で培った技術をもとに、医療機器開発も手がけるようになり、技術のストライクゾーンが確実に広がった」と試作ネット効果に胸を張る。

この道42年 町工場の開発屋

「親から仕事ももらえていたときは、やっぱり楽なんです」と、ファースト電子開発(東京都北区)の伊藤義雄社長は言葉を絞りだした。「自助努力」「自社製品の開発」……、努力は一朝一夕ではいかない。同社は人工衛星の通信機器を製造、スイスの高級時計メーカーに競技用計測器をOEM供給するなど、電子・無線応用技術を駆使して国内外に顧客を持つ。創業42年、技術のみで生きてきたわけではない。

「脱サラ・起業した当初は、下請け仕事を志向して試行錯誤を続け、声の大小を均一にする音声圧縮機を開発。これが当たり、経営は軌道に乗ったが「一つの仕事をしつつ、次はどんなことができるのか考えています。そうしないと、「新しいものを作ってほしい」というニーズに応えられない。常にこの繰り返しで、苦勞の連続だった。今では地域の顔役ともいえる経営者になったが、図面を渡されて作る製作型ではなく「開発型の仕事をします」と、当初からの経営スタイルを貫く。

「経営の根幹となる財務、中小企業が遅れがちになるIT、セキュリティなど、勉強を怠らないようにしていま

す」。営業部隊を持たないため、専門誌等に広告を出すなどしていたが、「これは使えない」と、ホームページを90年代後半からいち早く立ち上げた。

「ここ十数年、大企業がやつとパートナーと認めてくれるようになった」と、信用構築に時間がかかるように、「時間の積み重ねで培った技術と知識を、思いつきに組み合わせるアイデアにする」。これができないと、開発に至らず、思いつきのまま終わる。

会話のなかで何度も「諦めない」という言葉を使う伊藤社長の姿勢は、助成金申請、産学連携、異業種連携……でも発揮されている。参加しているからこそ、課題があることは知っている。ただ、「ダメだから参加しないのではなく、参加することで一つでも何か学びとります。転んでもただでは起きません」と笑う。こうした姿勢が、技術と知識、さらに信用を生む蓄積となつたに違いない。

元銀行マンで企業再生を担当した経験を持つ日本橋経営研究所代表の形岡暁生氏は「中小企業の支援組織は多いが、企業のことを理解している人は少ない」という。相談相手もなく悩む経営者が多いのも現実だ。経営相談から事業計画まで、生き残ろうとする企業を国や地域が支援できるか、「ものづくり立国」の真価が問われている。

主な拠点

国内拠点：1件

拠点名	所在地
事業所	東京都板橋区清水町 79-2-203

主な受賞歴

受賞年度	受賞名	主催団体名
1997年度	未来を拓く産業人顕彰(都市型産業顕彰部門) 優秀製品開発賞	北区